

学界消息

史学研究会 関係

二月例会

二月三日(土) 於京大史学科第二教室
イスラム文化の跡を訪ねて 藤本 勝次氏
(スライド使用)

国史学 関係

昭和三十六年度卒業生予餞会

二月二十三日(金) 於 楽友会館
昭和三十六年度卒業生三名の他、先輩、後輩
約四〇名が集り、卒業生の前途を祝した。

東洋史 関係

昭和三十六年度東洋史卒業生予餞会

二月二十四日(土) 楽友会館
京都大学旧制大学院会
一二月例会

一二月九日(土) 陳列館会議室
北朝の政治と思想 兼子 秀利
京都大学新制大学院会
一月例会

一月一九日(金)

楽友会館

『東洋史研究』第二〇巻第三号合評会

三月例会

三月二日(金)

楽友会館

宋代商業の一特性について 梅原 郁

居延漢簡の研究と今後の課題 永田 英正

西洋史 関係

西洋史読書会第九回春季大会

四月二十九日(日)

京都大学法経第五教室

デーンロー地帯の自由農民の性格について

——特にノルマン征服以降のリンカン

ヤーの場合—— 鈴木 利章

アメリカの「内戦」と労働者 山本 幹雄

ジェントルマン・イデアールの形成

——近代イギリス国民文化の系譜——

前川貞次郎教授帰朝談(スライド使用) 越智 武臣

地理学 関係

昭和三十六年度卒業生予餞会

二月二十四日(土)午後、地理学実習室に

て、学部卒業論文・修士論文の発表会を開き、活潑な討論を行なった。ひきつづき予

餞会(於「ミューンヘン」にうつり、歓談のうちに新卒業生(学部五名、大学院修士課程三名)の前途を祝した。出席者は教官・先輩・学生など四十三名。

人文地理学会第四十五例会

二月十日(土)午後二時

於京都大学文学部

長久保赤水のシナ図について 海野 一隆

エリア・スタディーズについて

本岡 武

人文地理学会第四十六例会

四月二十一日(土)午後一時三十分

於立命館大学文学部

山村社会の変動 佐々木高明

——一つの事例研究

知床の景観 木下 良・窪田哲三郎

中東・北アフリカの乾燥地帯 小堀 巖

日本地理学会大会

四月二十八日・二十九日の両日、日本大学

文理学部で開催された。京都大学地理学教室からは、昭和三十四年来、調査を続けている大阪東北郊門真地区の地域研究を共同で発表した。

昭和三十六年度

京都大学卒業論文題目

国史学専攻

近世宿駅について

細辻 亨

— 彦根藩領高宮宿の場合 —

中世末期における惣の変遷 丸山 幸彦

— 近江国蒲生郡得珍保の場合 —

平安初期の社会 溝上 瑛

〔修士課程〕

初期庄园制の歴史的構造 原 秀三郎

— 東大寺領庄园の開発と経営の分析 —

東洋史学専攻

清初インドシナに於ける華僑 小沢 良則

ムガール朝中期における

土地収税制度変遷の一考察 近藤 治

宋代の胥吏 佐竹 靖彦

— その政治機構に占める位置と機能 —

尺牘の芸術性 杉村 邦彦

— 特に法帖の中の管人尺牘について —

ウィグル帝国の西方拓疆に関する一考察

広瀬 哲朗

初期太平洋天国運動の一考察 藤田 敬一

五・四時期の李大剣について 山本 善久

〔修士課程〕

ガンダーラ史—サカ・クシャン時代

小谷 仲男

中国中世貴族制の崩壊と辟召制

— 牛李の党争の分析を通して —

礪波 護

ジュンガル王国勃興史の研究 若松 寛

明代哈密王家考 永元 寿典

北周の貴族と官界 難波 新治

西洋史学専攻

チャーティズム 伊吹 敏之

ドイツに於ける自由労働組合の発展

— 総務委員会の活動を中心に —

佐藤 栄征

エリザベス朝における英国下院の構成

富本 正幸

Henry の外交政策 藤谷 昇

十九世紀末アメリカ合衆国西部について

— 農民運動を中心として — 榎 繁

ジョセフ・チェムバレンの外交政策

森 絢子

十七世紀スペイン王室財政の諸問題

永井 柳雄

〔修士課程〕

トクヴィルの政治思想と近代フランスの

問題性 泉井 薫

デーンロー地帯の自由農民とその社会

— Norman Conquest 以降のリンカン

シャーの場合 — 鈴木 利章

地理学専攻

わが国の住居に関する統計的考察

朝倉 正寛

トンガの土地 飯田 博

農村における地域的秩序の変遷

石原 潤

勝尾寺文書にみる歴史的地域像

武藤 直

衛星都市についての一考察 森永 進

〔修士課程〕

明治以降における米作農業の地域的展開

応地 利明

中央アジア交通路の研究 酒井 敏明

中小漁業における産業資本の形成と流通

永井 洋子

村の変化と水田耕作 舟場 正富

会 告

史学研究会の改組について

『史林』四四卷一号にてすでにお知らせいたしました通り、史学研究会では、目下財団法人設立許可を申請中であり、右申請は未だ許可を得るには至っておりませんが、暫定措置として、昭和三十七年四月一日より、財団法人史学研究会寄附行為を準用して改組し、左記の役員、評議員、委員をもつて新発足することいたしました。

右、お知らせいたします。(なお寄附行為は財団法人の設立許可がありましてからお知らせいたします。)

昭和三十七年四月一日

史 学 研 究 会

記

理事長 宮崎 市定
 理事 *赤松 俊秀 秋山 國三 *有光 教一
 井上 智勇 *織田 武雄 貝塚 茂樹
 小葉田 淳 *佐伯 富 柴田 実
 田村 実造 時野谷 勝 中原与茂九郎
 中山 治一 長広 敏雄 羽田 明

監 事 評議員

林屋辰三郎	藤岡謙二郎	*前川貞次郎
水野 清一	村松 繁樹	森 鹿三
藤 直幹	村田教之亮	(*印常務)
会田 雄次	石田 一良	今津 晃
今中 寛司	岩城 隆利	内田 吟風
岡崎 敬	小畑 龍雄	越智 武臣
岸 俊男	慶松 光雄	小林 行雄
小牧 実繁	酒井 三郎	佐藤 長
水津 一朗	末永 雅雄	鈴木 成高
澄田 正一	曾我部静雄	高瀬 重雄
竹内 理三	角田 文衛	豊田 堯
奈良本辰也	西井 克巳	西村 睦男
野上 俊静	野間 三郎	萩原 淳平
原 弘二郎	林 健太郎	樋口 隆康
日野開三郎	平山敏治郎	福尾猛市郎
藤井 駿	藤原利一郎	別技 篤彦
宝月 圭吾	前田 一良	松井 武敏
松本 信広	三品 彰英	水川 温二

III 編集後記 III

宮崎 円遼 村山 修一 山口平四郎
 山崎 宏 山本 達郎 横田 健一
 米倉 二郎
 委員 越智 武臣 岸 俊男 佐藤 長
 水津 一朗 樋口 隆康 朝尾 直弘
 熱田 公 佐原 真 野田 宜雄
 山澄 元 横山 裕男 以 上

執筆者紹介

直木 孝次郎 大阪市立大学助教授
 彭 澤 周 大阪外国語大学教師
 小野 和子 京都大学助手
 荒武 鉄郎 京都大学大学院学生
 山本 雅弥 関西学院中学部教諭
 水津 一朝 京都大学助教授

正誤表

四五巻二号所載書評「鎌倉釈老志の研究(瀧波護)」にの次誤植がありましたので、訂正いたします。

一五六頁上段十三行目「三〇四頁」→「三四〇頁」
 十四行目「三四〇頁」→「三四三頁」

本年第三号をお届けいたします。予定の刊行日よりはなお大巾におくれておりますが、逐次回復にむかっており、あと二号で本来の姿をとりかえす予定です。今しばらくご辛抱をお願いいたします。

さて会告にて御覧のとおり、旧史学研究会は発展的に解消して、財団法人史学研究会寄附行為を準用して改組いたしました。これとともに委員の人員も拡充して、『史林』の編集・発行、例会の運営等諸事業を一層円滑に運営することを期しております。委員会も月二回定例に開催して、運営に新風をふきこむべく張りきっております。会員各位の御意見もどしどしお寄せ下さい。

なお、昨今またまた印刷コストの値上がりによる雑誌代・本代の値上がりが目立っておりますが、本会の会費は、会員各位が完納して下さる限り収支は相償う予定ですので、目下のところ改訂の予定はありません。それだけに、滞納はなさらずに、またなるべく前納下さいますよう、重ねてお願いいたします。(山澄 元)

史林 (第四五巻第三号)

一九六二年四月二十五日印刷
 一九六二年五月一日発行 定価 二百円

発行所 史学研究会

理事 長 宮崎 市定
 振替 京都五一五五番

印刷所 中村印刷株式会社